

# お盆法要

すべての回、法要時間は30分です。

ご都合により、対象以外の回にも、お参り頂いても結構です。

## 8月15日(日)

10時より

新盆対象

12時より

新盆対象

13時30分より

一般のお盆対象

15時より

一般のお盆対象

## 8月16日(月)

10時より

新盆・一般のお盆対象

11時30分より

新盆・一般のお盆対象

### 持ち物

過去帳か位牌

お念珠

お経の本

読み上げ用紙

### お盆法要について

法徳寺では、毎年、有縁の方々合同で、新盆法要・お盆法要をお勤めしております。浄土真宗のお盆は、お寺の阿弥陀様に、お参りするのが、正式なのです。その主旨は、阿弥陀経に『俱会一处～阿弥陀仏の浄土で、俱(とも)に一つ処で出会う』という言葉が出てまいります。それは、先立っていかれた、すべての方が浄土に生まれていらっしゃるという意味なのです。それにより家族単位ではなく、法徳寺有縁の方々全員で読経・お焼香頂き、法話を聴聞頂いております。

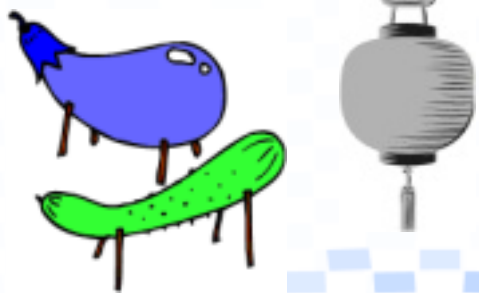
当日は、平服でかまいません。  
お盆法要で読み上げをご希望の方は、同封の用紙にご記入の上、受付に提出して下さい。

# 法徳寺だより

第96号 発行  
浄土真宗本願寺派  
法徳寺  
厚木市岡田5-4-12  
TEL 046-228-3962  
住職 伊東英俊  
法話 伊東英幸  
編集 伊東祐子

## 浄土真宗のお盆の迎え方

ぼくたちの  
出番はないね・・・



浄土真宗は、いつものお飾りそのままで大丈夫です。理由は、ご先祖はお盆の時期にだけ帰ってくるわけではないからです。いつも、帰ってきて下さっているという気持ちで、毎日、お参りして下さい。

## 法徳寺こども会

今年も、毎年恒例、夏休み限定の法徳寺子ども会を開催します。



8月20日(金)

法徳寺に午後1時集合。

秦野戸川公園散策予定。夕食後、解散。

対象は小学生～中学生(親同伴の場合、幼児も可)

参加費は無料で、どなたでも参加できます。

詳細は、お寺までお問い合わせ下さい。



親鸞聖人七五〇回大遠忌に向けて  
二〇一一年(平成23年)、五十年に一度の大法要が行われます。西本願寺では、大遠忌に向けて着々と準備が進められています。私は、一生に一度、あるかないかの、この御縁に出会わせて頂き、うれしく思います。

### 法徳寺の模型

このたび、水野 建司さんに法徳寺の模型を作って頂きました。建物の内部まで再現されており、大変、素晴らしい作品です。

お寺にお越しの際は、ごらんになって下さい。水野さん、ありがとうございました。



### ご案内

法徳寺には、境内に、永代合祀墓がございます。納骨を、ご希望の方はお気軽にご相談下さい。寺が責任をもって永代にお護りいたします。

詳しくは、ホームページをご覧ください。



法徳寺墓地内の永代合祀墓

### こころ法話会

8月は、お休み

9月2日(木)

PM1時半～3時



# お盆号法話

先日、久しぶりに一人で京都に行ってきました。今回の目的は、来年に行われる親鸞聖人七百五十回大遠忌法要の下見です。京都には、前日の夜遅く着きまして、西本願寺の隣の門法会館に泊まりました。ここに泊まりますと、西本願寺で、毎朝行われています朝の勤行に参加しやすいのです。皆さんも京都に泊まったら、是非、朝の勤行にお参りしてください。大変、素晴らしいですよ。朝の勤行が終わわり、晴れ晴れとした気持ちで、すっかり修復が完了した西本願寺を散策、大変、感激致しました、やはり、本願寺は心の故郷です。でも、今日の夕方には、神奈川に戻らなさいいけないなんて残念と思いつながら、会館に戻りました。さて、今日のスケジュールについて、頭を悩ませていると、会館のパンフレットに、タクシーで、親鸞聖人のゆかりの地を巡ってみませんかという文字が目に入りました。これなら、短時間で回ることが出来るそうだと思います、早速、お願いしました。ベテランの運転手さんが、観光案内もしてくださいまして、有意義に下見が出来ました。やはり、プロの方の知識はすごいと感心しました。しかし、観光地で、運転手さんが、私に、ガイドをしてくれるのですが、周りにいた関係ない観光客の人も、私と一緒にその運転手さんのガイドを聞いているんです、私たちが、移動すると一緒に移動するのです、中には、質問したりして、運転手さんもそれに答えているんですよ、「私が、お金払っているのに！」と正直不満でした(笑)。

心がせまいですね。でもお陰で、とてもいいコース設定が出来たので、皆さん、楽しみにしてください。

## 親鸞聖人

ここで、親鸞聖人幼少の頃のお話をしたいと思います。皆様、昔、歴史の授業で勉強した鎌倉幕府が開かれた年度を覚えていますか？いい国作ろう(1192年)鎌倉幕府と覚えましたが、その当時親鸞聖人は、二十歳、比叡山で修行中でありました。鎌倉時代の前の平安時代は、いわば、貴族仏教の時代です。選ばれたくわずかな方のみが救われる時代です。しかし、鎌倉時代になり、鎌倉仏教といわれる浄土宗、浄土真宗、日蓮宗、曹洞宗が開山されます。鎌倉仏教の特徴は、貴族仏教から庶民の仏教です。この時代に、多くの宗派が出来たのか、それだけ、この時代は、大変な転換期であり、荒れた時代であったのです。いわば、時代が求めたのでしょうか。その鎌倉仏教の開祖といわれます祖師方は、すべて、最初、比叡山で修行されたのです。

親鸞聖人の誕生は、一一七三年京都のお生まれです。父は、日野有範さま、藤原氏の流れをくむ貴族です。母は、吉光女さまといひます、源氏の流れをくむ方です。当時、平家がものすごい力

を持っていた時代でしたので、日野家は貧しい貴族であったようです。母は、聖人が八歳のときに、死別。父は、勢力争いの中で、出家し離れ離れ(諸説あります)、聖人は、叔父に育てられます。今で言えば、家庭崩壊、けつして、幸せな幼少時代ではありませんでした。世の中は、貴族社会から武家社会への大きな転換期、それに加え、大きな火災、飢饉が続き、京は廃墟と化し、街には死体があちらこちらに転がり異臭を放っていました。そんな中、聖人は、世の中の無常をお感じになったと思います。わずか、九歳で、青蓮院で得度をされます。式が夕刻となり明日に延ばそうとしますと、「明日ありと思う心のあだ桜、夜半に嵐のふかぬものかわ」とうたいその日のうちに得度をされたといえられております。



## 親への感謝

その後、比叡山に登った聖人は、堂僧という立場で日々仏道修行にはげられます。その修行は、二十一年間にもおよびましたが、救われることはありませんでした。二十九歳の時、聖徳太子が建立された、京都の六角堂の久世観音に念じて、自分のすすむべき道をたずねる決心をしました。六角堂にこもられて95日目の明け方、法然上人をお訪ねになる決心をされました。

先日、友人の結婚式に招かれました。結婚式の最後、新婦が、両親の前で、「私を生んでくれてありがとう、今まで育ててくれてありがとう」というメッセージが、私は大好きです。親に面と向かって、しかも、多数の人前で、なんとすばらしい言葉でしょうか。ところが、日ごろは、親に対し文句を言うことの方が多いのではないかと思います。どうせ、生むんだしたら、もう少し美人に生んでくれればよかったのに！とか、どうせなら、賢く生んでくれればよかったのに、もう少し、金持ちの家に生んでくれればよかったのに、きりがありませんが、そんなふうに思うことが誰しもあると思います。私が一番思ったのは、幼い頃、なんで、お寺の子に、生んだんだということでした。普通の家に、ほんと、あこがれたものでした。大体、お坊さんと聞いて、連想する言葉は何ですか？クソ坊主、坊主にけりや袈裟までにくい、三日坊主、坊主丸儲け、ロクな言葉がありません。

ところで、あるとき、何かをきっかけに、ちょっと待てよ。頼んでもいないのに、よく生んでくれた、頼んでもいないのに、よく育ててくれたという気持ちがあわおこってくる。生きている有り難味、生まれてきた喜びというものに気付いた時、そして、先

立つ親を見送るとき、親に対する感謝の気持ちがわいてくることがあるのではないのでしょうか。

親鸞聖人は、比叡山で九歳から二十九歳まで、大変な修行をされました、それは、救われたいという一心であったのです。しかし、聖人の心は、一向に晴れなかつたのです。ところが、法然上人に出会い、気付けられます、私が、阿弥陀仏に救って下さいとお願する前に、既に、救われていた。

浄土真宗は、南無阿弥陀仏を称える宗派ですが、ある本を読んでおりましたら、念仏には、「しなければならぬ念仏」と「せざるを得ない念仏」があり、親鸞聖人の念仏は、後者の方であるという箇所がございまして、面白い表現だなと思いました。念仏を称えなければ救われたいのではなく、念仏とは、既に、救いの中にあることへの感謝なのです。既に、救われている「せざるを得ない念仏」、しないわけには申し訳ないのです。

## お盆の主役は誰？

お盆の主役は、亡き方だと思われていると思いますが、実はそうではないのです。もし、亡き方が迷わないように、成仏出来るように、寂しがないように、みんなで供養しましょうというのであれば、主役なのです。しかし、今、亡き方は、阿弥陀様の「必ず救いますから、どうぞ、安心なさってください、お任せください」というはたらきの中にあります。そのはたらきに対して、「ありがとうございませす、お任せします」とお礼をすることになりますので、阿弥陀様が主役です。そして、準主役は、お参りなさっている方なのです。亡き方は、阿弥陀様と共に、残された皆さまを、心配されております。亡き方は、なぜ、心配なさっているのでしょうか？それは、皆さまが、毎日、生きるのが楽しくて、何の悩みもない、苦しみもない、不安や悩みや悲しみもないのであれば、仏様の教えを聞く必要もないし、仏様に救われる必要はありません。しかし、そのような人生を生きている方が、はたしていらつしやるのでしょうか？実は、迷い、苦み、悲しんでおられるは、私たちの方だからです。その私たちをご覧になって、仏様は、安らかに眠っていたり、ほつてはおけないのです。皆さんが、救われることが、亡き方が救われることなのです。

お盆を迎えるにあたり、自分自身は、安心して人生の卒業式を迎えることが出来るだろうかと考えてみてください。こんな川柳があるそうです。「いつまでも、生きている顔ばかり」「死ぬことを忘れていてもみんな死に」。

(法話 副住職 伊東英幸)